

令和6年度 兵庫県立香住高等学校 学校評価及び学校関係者評価

～ 海と地域に学び、在りたい未来に貢献する香住高校 ～

1	教育方針	「真理を究め、責任を果し、敬愛を尽す」の校訓のもと、家庭・地域社会と連携して夢や志を育む教育を推進し、知・徳・体の調和した、こころ豊かで自立する人を育てる。
2	本年度の重点目標	(1) 個々の生徒に応じた学習指導を行い、「確かな学力」を育成する。 ア 基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力を養う探究的な学びを推進し、「確かな学力」を身に付けさせる。 イ 地域資源を活用した特色ある教育活動を展開し、個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。 (2) 達成感と自己有用感を育む教育を推進し、「自主・自立の精神」を養う。 ア 体験的な教育活動を積極的に推進し、自ら主体的に学び行動する意欲と態度、生涯設計に基づき進路決定できる能力を育成する。 イ 家庭や地域社会と連携した組織的・系統的なキャリア教育を充実させ、社会の担い手としての勤労観や社会に貢献する姿勢を育む。

(3) 人間的なふれあいと規律を重視した生徒指導を進め、「豊かな心と健やかな体」を育てる。 ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を生徒自ら考え判断する取り組みを通じて、公共の精神や協調性を涵養する。 イ 地域や関係機関と連携して安全・安心な学校づくりを推進し、自他の生命を尊重する心や他者への思いやりの心を育む。 ウ 感染症の拡大による影響を配慮して、自己肯定感・自己有用感、心の危機に気づく力を育成する。 (4) 教職員の資質向上を図り、「互いに支え合い切磋琢磨する職場」づくりに努める。 ア 授業力を高めるために、授業研究や教職員研修を通してICTの効果的な活用を推進し、生徒の実態に応じた効果的な指導方法の工夫・改善を図る。 イ 校務・業務の効率化と情報化を推進するとともに、教職員相互の協力・協働体制を強化する。

評価は4段階で、4=できた、3=まずまずできた、2=あまりできなかった、1=できなかった

総合判定 A・・・4.0～3.5 B・・・3.4～3.0 C・・・2.9～2.5 D・・・2.4以下

分野	目標	実践目標	具体的取り組み（評価項目） / 今年度の成果	評価	総合判定	学校関係者評価	次年度への取り組みと改善策
総務部	1	感染症対策予防の推進と安全・安心な学校環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ① 感染症予防に努め、適切な学校生活および行事を実施する。 ② 清浄やゴミ分別の徹底により日頃より学習環境を整え、定期的な安全施設設備の点検を行い、生徒の安全に関する意識啓発に取り組む。 ③ 関係機関との連携により、本校に適した校内防災体制の充実を図り、防災意識を高める訓練を実施し各自が正しい判断ができる準備を図る。 【取組成果】 / 徐々に新型コロナウイルス感染症に対する恐怖心や危機感が低下する中、インフルエンザやマイコプラズマ等の感染症も併発するようになった。それらの中の予防啓発活動がほとんどできていなかった。行事としてはコロナ禍前とほぼ同様に実施できている。 / 生活環境を整えるように心がけているが、すべての要望に対応できていない。事務室共に改善行く必要がある。学校安全点検は、今までのやり方と変え、複数の違った視点から点検を行う。 / 防災避難訓練は、いかに実践的、効果的なものにするかの課題を持ちながら、新たにICTを使ったものを実施した。学校内の課題を整理し、対策マニュアルを改善していきたい。	3.4	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力発信について、発信することが目的にならないよう、誰のため何のため、なぜ行うのかを明確にして実施していただければと思います。 ・ 何事においても、危機意識や防災意識の低下は免れないが、緊張感は極力保持してほしい。 ・ 参加者数の維持と増加は重要。 ・ 「オープン・ハイスクール」の参加者を増やすための対策は、常に考えて取り組んでいくことが大切であると思います。参加した中学生がすすんで入学を希望するよう学校側の受入を万全にしてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も継続して感染症の状況を把握し、適切に学校行事等の運営等に努める。 ・ 本校の現状に即した防災体制の変更を行う。 ・ ICTの活用や防災意識を高める取り組みを行う。 ・ 学校安全点検や掃除用具等の管理を行い、より安全な環境づくりに努める。 ・ ホームページや広報活動をより充実した魅力の情報発信を行う。 ・ オープン・ハイスクールの充実を図り、中学生に本校の魅力を伝える。
	2	地域貢献活動の推進と香住高校の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域諸施設と連携した文化活動や環境学習、ふるさとづくりに貢献する。 ② 行事計画に基づき広報活動を積極的にを行い、ホームページを随時更新する。平均週1回以上を目指す。 ③ 学校案内パンフレット刷新するなど、学校の魅力を校外へ発信する。 ④ オープンハイスクールの内容の充実を図り、入学希望者の増加に努める。 【取組成果】 / 月に1回の香美町高校支援連絡会に参加し、町および村岡高校と意見を交換しながら総合的な探究の時間のフォローにあっている。 / 広報活動として、各行事について報道機関への取材依頼、一部遅くなっているができるだけ多くHPを更新。月に1回学校歳時記を作成し保護者や中学校への情報を発信している。 / 本年度も、大きく学校パンフレットを改訂し公開している。 / オープンハイスクールは多くの先生の協力のもと、新たな取り組みも取り入れている。参加中学生への評価は高いが、参加者数増加の方法を考えなければならない。	3.3	B		
保健部	3	生徒の健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ① 状況をふまえ、授業確保をしつつ、短時間で円滑な健康診断等を行い、本校生徒の特徴を理解し、生徒の健康増進と保健衛生の充実を図る。 ② 感染症や事故防止の啓発を積極的に行い、状況に応じた生徒連絡、職員連絡を実施する。 【取組成果】 / 健康診断の計画及び円滑な実施を行い、関係機関と連携した。 / 校内保健委員と感染症対策、熱中症対策を考えた全校集会での発表や校内掲示を行うとともに熱中症予防講習会を実施した。	3.3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内、寮内の教育相談の確立を進めたこと、生徒の内面的なサポート体制の充実を図ったことは良かったと思う。 ・ 時宜を得た取組だと思う。 ・ 保健部の評価が高いことは、生徒へのサポートが良いことであると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の健康問題を教職員、生徒と共に対応・改善できるような努める。 ・ 特別支援については、他者理解を中心に集団生活における応用力を高める必要がある。また、障害も多様な生徒の特性を理解し、効果的な教育活動、サポートに結びつけるようにスキルを高めていきたい。 ・ 定期的に、外部講師を招いての保健教育をすすめる。
	4	生徒の内面的サポート体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① キャンパスカウンセラーによる定期的なカウンセリングを行い、生徒の内面理解を深める努力と情報の共有を図る。 ② 通級指導も含め支援を要する生徒のための関係機関と連携し、校内サポート会議の開催により生徒情報と指導方法の共通理解を図る。 ③ 多様な生徒を理解し、適切な指導をするための職員のスキルアップに努める。 【取組成果】 / 校内・寮内での教育相談の確立を進めた。 / 関係機関やサポート会議との情報交換を行い、支援体制の充実を図った。 / 職員研修・サポート会議の実施を進めた。	3.5	A		
教務部	5	授業の改善	<ul style="list-style-type: none"> ① 学科、教科、学年と連携した時間割を作成し、スムーズな運営に努める。 ② 公開授業を実施、授業者、参観者の授業質の向上、改善を図る。 ③ 成績不良者の指導を毎学期ごとに実施する。 ④ 授業アンケートを実施し、その結果を協議しより良い教科指導につなげる。 【取組成果】 / 時間割では多くの変更が必要であったが年間を通じて滞りなく作成することができた。 / 研究授業では延べ8名の先生に授業をしていただき、日頃の授業を見直し、新しいものを取り入れる機会とすることができた。 / 授業アンケートで授業の実態把握はできたが、その後の改善につなげることが課題である。 / 成績不良者へのガイダンスは1学期2学期とも多くの生徒保護者に対して実施し、進級や単位取得の説明はしっかりと行うことができた。	3.2	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力についてはわかりかたありますが、まじめに取り組める子が多いように感じます。KHSでは、この子はこんな力があるんだと気付かされることも多かったので、今後もより充実させて自分たちだけでふるさとづくりに貢献できる活動やその充実感が学習にも波及することを切に願っています。 ・ 学校発表会や成果発表会、保護者の成績不良者へのガイダンスは大変大切なことで、しっかり説明できていることは良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度以降も学年、部、科と連携したスムーズな授業の運営に取り組む。 ・ 授業改善では引き続き研究授業を実施し寄り良い授業ができるよう、学習環境を育てて改善を行う。 ・ 成績不良者や欠席の多い生徒に対して、3者面談を実施したが、授業補充や単位の不認定等が多くなったため更なる改善をしていく必要がある。 ・ 教育課程に関しては、本年度作成した令和7年度入学生用のものをベースに職員の人員や地域、生徒のニーズ、学校の特色等を考慮し、より良いものを作成する。 ・ 教務部全体として業務の簡素化、不必要な業務の削減等を積極的に実施したい。 ・ 「総合的な探究の時間」の活動や発表会など定着しつつあるが、改善すべき点が出てきている。校内での研修または地域との連携をさらに進めていく。
	6	教育課程の編成と実施	<ul style="list-style-type: none"> ① システム、評価等を含めた新たな教育課程への移行をスムーズに行う。 ② 調査、アンケートを通じた生徒の学習進度の把握と改善を図る。 ③ 令和7年度実施・入学生の教育課程作成を行う。 【取組成果】 / すべての学年で新たな教育課程が実施されたが、システムの運用などの移行はスムーズに行う事ができた。 / 令和7年度の実施教育課程の作成は行うことができたが、展開数や講座数が多く、生徒すべての需要に答えよとすべき感はある。今後はどういった方針で教育課程を編成するのかを考える必要がある。	3.2	B		
7	「総合的な探究の時間」の充実を図る。学年を通して系統的な学習計画の立案と発展的な教材作成を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ① 香住高校における「総合的な探究の時間」の体系の確立を図る。 ② KHS company projectとし、1学年は探究活動に取り組むための基礎作り、2学年は地域に学び地域に貢献する1年間、3学年は自分の実践を道路実現に生かす1年間と位置づけ、自ら課題を設定し、解決する力を養う。 ③ 各学年における活動の成果を発表・報告する機会を設ける。 【取組成果】 / KHS company projectとして学校の内外問わず、地域のイベントなど生徒が活動の幅を広げて学ぶことができた。 / 各学年の担当者と進捗状況を共有する場を設けることができた。 / 3学年では学校発表会、1、2学年での成果発表会など多くの場面で活動の成果を発表する機会を設けることができた。 / 担当者間での意識の違いや、少ない単位数で運営が難しい部分などが今後検討する必要がある。	3.0	B			

分野	番号	実践目標	具体的取り組み（評価項目） / 今年度の成果	評価	総合判定	学校関係者評価	次年度への取り組みと改善策
生徒指導部	8	安全・安心な学校生活の維持、および地域・時代・学校が調和した生徒指導の実践	<p>①交通安全、情報機器（SNSやスマートフォンの取り扱い）、禁止薬物等について、外部機関による講話を取り入れながら積極的な指導を行い、生徒が安全・安心な学校生活を送れるように努める。</p> <p>②いじめ問題、自殺、不登校などの諸課題について、また不審者対応等について、年1回以上の職員研修を実施し教職員の能力向上に努める。</p> <p>③いじめ問題に対しては、いじめアンケートや面談週間を実施し、各学期に情報の共有を目的とした連絡会を行うことで、いじめの未然防止に努める。また、組織的にいじめ問題に取り組んでいる。</p> <p>④各学年と連携しながら立ち番指導や定期的な服装頭髪検査を実施し、ルールやマナーを守る規範意識の向上に努める。また、教職員全体で情報共有することで、教職員全員で生徒指導に当たれるよう努める。</p> <p>⑤制服の検討や服装移行期間の見直しなどを推進し、性的マイノリティー（LGBTQ）への配慮や但馬の気候に対応した服装の選択制を拡充する。</p> <p>⑥生徒主体に生徒や保護者と情報交換できる場を設け、校則や規定の見直しを進める。</p> <p>【取組成果】 / 美方警察署署員による非行防止教室の実施や、番住自動車教習所の協力のもと、自転車免許制度を実施した。また、道路交通法改定に伴い自転車乗車ルールに関する資料の配布を行った。 / 職員会議にて、研修報告を兼ねないじめ問題や自殺、保護者対応に関する情報提供・共有を行った。また、年度当初に全職員に対して不審者対応マニュアルの説明を行い、校舎出入口外部からの侵入を抑制するための掲示をするなど、不審者対応に努めた。外部講師を招いての研修等は実施できていないので、来年度の課題である。 / 各学期にいじめアンケート・寮生活アンケートや面談週間を実施し、いじめの未然防止や早期発見に努めた。 / 朝の立ち番や毎月の服装頭髪検査を通し、ルールやマナーを守る規範意識の向上に努めた。服装に関する諸規定については、教室掲示等で細則や補足を掲示し生徒が共通認識できるように努めた。 / 制服の変更や選択制に関する検討が進んでいないので、3学期や来年度の課題として今後積極的に取り組んでいきたい。昨年に続いて授業中の防寒着の着用は許可した。 / 鍵付きロッカーの導入に伴い、タブレットの保管や管理についての規定を設けた。また、スマートフォンの取り扱いについて、教職員間で検討を行った。</p>	3.0	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に密着した貢献活動を実施できたこと、またその活動を継続していることは評価できる。 ・2列、3列で自転車に乗ったり、校外でのゆるみが見受けられました。規律も確かに大切ですが、自配りや気配りができる子であってほしいと思います。その行動が人様に迷惑にならないかを考え、行動できる人財への指導を望みます。 ・短期的には成果は見えにくいと思うが、継続をぜひ維持してほしい。「過去の継続努力によって、現在評価されている」。 ・生徒指導の評価が一番低いのもとても心配です。対策をしっかりと！！ 	<p>安全・安心な学校生活の維持、および地域・時代・学校が調和した生徒指導の実践</p> <p>・今年度は、特別指導の数を多く生徒指導上の課題が山積している一年となった。校内での生徒指導上の対応や既定の見直しだけでなく、県内でも課題になっている交通安全、自死問題、大麻問題、校則や制服の見直し等、多くの課題に対して積極的な取組をすることができていなかった。3学期に制服検討委員会が制服に関する検討を進めたが出したが、来年度は、さらに諸課題解決のための取組を増やし、生徒が安全・安心な学校生活を送れるようにしていきたい。</p> <p>生徒指導の評価にも反映されているように、生徒指導に苦手意識をもつ教員が多いように感じられる。研修報告や研究報告を通して、学校教職員の意識やスキル向上に貢献したい。</p> <p>各種行事においては前年度のアンケートのご意見を反映させるか、反映できないものは理由をきちんと説明し、多くの教職員・生徒ができるだけ納得した状態で実施できるようにし、より良いものにした。</p> <p>生徒活動の活性化 生徒会を中心に全校生の声を聞く機会を設け、生徒が主体的に校則の見直しや各種行事の運営に携われるようにしていきたい。</p>
	9	生徒活動の活性化	<p>①生徒が主体的に取り組む行事を促進し、学校祭など各種行事の運営を行う。</p> <p>②番住駅や番住海岸での清掃ボランティア、花いっぱい運動など地域貢献活動を通して地域に密着した生徒活動の活性化を図る。</p> <p>③部活動の支援を図ると共に、各学期に校内顧問会議やクラブ部長会を実施し、安全な部活動の運営や練習場所・部室棟の適正な管理を図る。</p> <p>【取組成果】 / 台風や荒天により日程の変更や種目の変更があったものの、文化祭や球技大会を実施することができた。課題や改定した方がいいものについては、来年に反映できるように心掛けていきたい。 / 各月の番住駅や番住海岸での清掃ボランティア、各学期の花いっぱい運動など地域貢献活動を実施した。 / クラブ部長会などを通し、安全な部活動の運営や練習場所・部室棟の適正な管理を図った。顧問会議は、議題がないときには紙面配布で行うなど、柔軟な運用を行った。</p>	3.2	B		
進路指導部	10	進路情報・資料を有効活用し、指導の充実を図る。	<p>①オンライン上での求人票管理を行うことで、生徒個人の端末から求人票の閲覧を可能にする。</p> <p>②進路指導室の出願環境の整備を図る。</p> <p>③指定校推薦（進学）一覧のデータ更新および開票方法の整備</p> <p>④キャリアサポートを活用し、活動データの蓄積を行うと同時に、勤労観の醸成を図る。</p> <p>⑤進路通信を定期発行し、進路決定や進路実現のきっかけ作りを仕掛ける。</p> <p>【取組成果】 / 閲覧準備から運用に至るまでスムーズかつ効果的に活用することができた。 / 今年度は利用機会が少なく、有効に活用しることができなかった。 / 丁寧かつ正確に資料の整理を行い、生徒が閲覧しやすい資料作成に努めた。 / 低学年をターゲットとし、行事や長期休暇前などの節目のタイミングで生徒の意見を聞き溜める契機を設けた。 / 新たに進路指導部通信を発行し、進路決定につながる情報提供に努めた。</p>	3.3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたい事が見つからない年齢で、指導は苦労されているかと思えます。卒業生には多様な進路があるので、求職して話をしてもらう機会を作ってもらっても良いのではないのでしょうか。 ・進路情報の提供が適正な進路指導を評価させていただきます。 ・進路通信の発行は良いと思います。がんばってください。 ・共通テスト受験者を増やすために、サポート体制を取り組んでください。 	<p>・高校卒業時の進路選択の重みや意識づけが不十分であったと認識される1年であった。説明会やガイダンスなどを早期の段階で実施し、自発的な進路選択に取り組める工夫が必要であった。</p> <p>・定期的な進路通信の発行を継続することができなかった。</p> <p>・進年度の卒業生をターゲットにした情報収集を行いアンケート化したものを在校生に提示することで、進路選択の一助になる仕組みを検討したい。</p>
	11	進路指導方法の研究	<p>①新課程入試に対する情報収集を行い、適切な進路指導を行う。</p> <p>②進路の手引きを作成し、進路に関する情報や進路決定の流れを可視化する。</p> <p>【取組成果】 / 共通テスト受験者が減少し、多様な進路実現に向けてのサポートに課題が残った。 / 3学年の生徒全員に手引きを作成し、進路決定までの道のりを明確に示すことに努めた。</p>	3.2	B		
海洋科学科	12	魅力のある授業、実習の実施	<p>①新学習指導要領に即した授業、実習への改善を行う。</p> <p>②ICTの活用等を通して生徒が主体的に学ぶ力を育成する。</p> <p>③生徒の進路実現に即した授業、実習を実施する。</p> <p>【取組成果】 / ICT機器やタブレット端末などの活用により、生徒の理解を容易にするとともに、生徒が主体的に学ぶ意欲を喚起できている。 / アーク溶接の実技講習に35名の生徒が参加するなど、進路実現に即した実技講習、資格取得の促進に繋がる取組ができています。</p>	3.3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が期待し壁む授業が実施されていることで、生徒の学習意欲向上につながっていると思う。そのことでまた、海洋科学科に興味をもってもらえようと思う。 ・積極的な取組が成果につながっていると思う。 ・「オープン・ハイスクール」参加者が大幅に増えたのに受験者が増えない原因を考え、対策をとってほしいです。 	<p>海洋科学科の現在のようなコース体系になってから15年以上が経過しているので、各コースでの魅力化について検討するとともに、外部への発信を充実させ、生徒募集につなげたい。</p> <p>土日の業務負担の軽減については考慮し各議員の週末の業務負担軽減について調整するよう調整を行ってきただけ、一部ではできなかった部分もあるので各コースでもう一度行事の選択に集中について精査をしながら学習活動の活性化を図りたい。</p>
	13	対外的な行事を通して、学習活動の活性化を図る。	<p>①対外的な行事の選択と集中について検討し、生徒が日頃の学習の成果を発揮できる行事にはより重点をおいて取り組む。</p> <p>②海洋科学科の特色ある取組をPRし、生徒募集につなげる。</p> <p>③各種関連機関との連携を密にし、より現場に即した実践的な授業、実習を実施する。</p> <p>【取組成果】 / 対外的な行事への取組とおして海洋科学科のPRに繋がっている。一方で、業務の多忙化に繋がってしまっている。 / 夏のオープン・ハイスクールの参加者が昨年度86名から本年度130名へと大幅に増加した。</p>	3.4	B		
3学年	14	個別の進路実現に向けた進路指導と学習指導を行う。	<p>①生徒、保護者、担任（学校）と連携して個々に合った進路を実現する。</p> <p>②放課後、休業中の進学補習を実施する。</p> <p>③BYODを活用し、授業中、授業外の各連絡等のタブレット利用を充実させる。</p> <p>【取組成果】 / 適宜三者懇談会を行うことにより、生徒、保護者、担任（学校）と連携して進路の決定に至った。 / 放課後と休業中の補習の計画を立て、個に合った補習を展開することができた。 / 授業外でもタブレットを活用した授業での実施が充実していない科目もある。</p>	3.4	B	05学校	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や看護医療専門学校への進学意識が低かったように見える。その結果、補習への意識も低いまま放課後や休業中の補習への先生方にも迷惑をおかしている。安きに流れている傾向があるので、少しでも頑張ったより良い進路を目指す指導を徹底すべきだったと反省する。 ・3年間を通してマナーを守ったり、一般常識を身につけるべく指導を行ってきていたつもりだが、他者を思いやることができている部分がある生徒も少なからずいる。できるなら全員に規範意識を持たせて卒業させたい。
	15	自立した学校生活を心掛け、他者への思いやりを持ち、社会へ適応できる人材を育てる。	<p>①野外活動、学校祭を通して仲間との協調性を高め、達成感を得る。</p> <p>②卒業時に生徒全員が後悔のないような生活ができるように学年一体となって取り組む。</p> <p>③一般常識を身につけ、社会へ適応できるように適切な指導を行う。</p> <p>【取組成果】 / 4月にはUSJに行き、9月には文化祭を行い、仲間との協調性を高め、達成感を得ることができたが、体育祭は中止となった。 / 現在、進路未決定者が複数いること、また卒業まで日数があることにより、まだ成果は出ていない。 / 日頃からの声掛けを実施している。出前講座で社会のことについて学ぶ予定である。</p>	3.2	B		

分野	部署	実践目標	具体的取り組み（評価項目） / 今年度の成果	評価	総合判定	学校関係者評価	次年度への取り組みと改善策
2学年	16	基本的な生活習慣の確立を図り、自己管理能力と豊かな心を育む	<ul style="list-style-type: none"> ◎修学旅行やホームルーム活動を中心に生徒間のコミュニケーションを促進し、他を認める豊かな心を養い、積極的に行動できる精神を育む。 ◎学校祭や学校行事を通して達成感、成就感を味わい、自主自立の精神を培う。 ◎進路ガイダンスを複数回実施し、進路選択を根拠あるものとし、ミスマッチを防ぐ。 <p>【取組成果】 / 修学旅行では悪天候のため予定通りにいかないことがあったが、無事実施することができた。 / 文化祭を通してクラス内での協調性や団結力を高め達成感、成就感を得ることができた。 / 進路ガイダンスを3回実施し、進路意識の高揚を図ることができた。</p>	3.3	B	・協調性や団結力を高め、責任感や達成感を醸成することは高く評価します。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生活指導について <ul style="list-style-type: none"> ・最上級生として、生徒会や部活動などの場でリーダーシップを発揮させる。 ・昼休みの立ち番や面談をとおして、できるだけ生徒とコミュニケーションをとり、生徒の言動等を見守ることによって、生徒理解に努める。 ・手帳の使用については、ICT活用の活用も含めて再検討していく。 ・社会性や団体行動の向上を目的とした校外学習を積極的に行う。 (2) 学習について <ul style="list-style-type: none"> ・各定期考査前に関係する生徒に補習を行い、全員の卒業を目指す。 ・確かな学力をつけさせるために、各教科と連携し、個々にあった指導法を探り、効率的な学習方法を学力を身に付けさせる。 (3) 進路について <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携して進路情報の収集、進路指導計画を行う。 ・自己と社会との関係について意識させ、進路目標について考えるためのLHRや総合学習や面談を行う。 ・生徒個々の進路目標の実現を支援する。 ・保護者、本人との面談をとおして進路先のミスマッチを防ぐ。
	17	学校集団の中核として、リーダーシップを育成する	<ul style="list-style-type: none"> ◎生徒会活動、学校祭などにおいてリーダーとしての役割を経験させる。 ◎部活動の中核として自主性と責任ある態度を育成する。 <p>【取組成果】 / 生徒会長をはじめ、各種委員会の委員長等において、積極的に立候補し、リーダーとしてその役割を果たす機会を設けることができた。 / 日々の学校生活においてリーダーとしての役割を課すことで、責任感や達成感を持たせることができた。</p>	3.2	B		
1学年	18	本校生としての自覚と誇りをもち、生活や学習の基礎基本を身につけさせ、自己実現に向けた学校生活を送らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ◎基本的な生活習慣を身につけさせ、落ち着いた態度で学習に臨む姿勢を確立する。 ◎日々の授業の積み重ねや週末課題・小テストの実施により基礎学力を身につけさせる。 ◎教育活動全体をとおして、知識・技能・思考力・判断力等の個の学力を高めるとともに、学び合いによりクラス・学年全体の学習意欲の向上を図る。 <p>【取組成果】 / SHR・LHR・学年集会や個別指導および見守りをおして生活態度や学習態度の確立を行った。 / 週末課題の提示と点検、小テストの実施と評価により、基礎学力の向上を図った。 / LHR等を活用し、学習や行事への取り組みについて振り返る機会を設けるとともに、共に学ぶことの大切さについて指導を行った。</p>	3.0	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上への取組は大変良く、継続して取り組んでほしいです。 ・学校での生活習慣を重視した中での学力向上を大いに期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SHRやLHRの内容の充実を図り、立ち番による見守りや指導をとおして、他を思いやる心の育成と規範意識の向上を目指す。 ・学校生活と家庭生活の状況を家庭・学校間で共有し、連携と協力体制強化のもと、自律と自立を目指す。 ・進路希望調査や個人面談の実施、外部講師を招いてのガイダンスの開催により、学年全体の進路意識の高揚と個々の希望進路の実現に向けて重層的な指導を行う。 ・各教科の学習態度を把握し、学習姿勢改善に向けての個別面談や、指名補習により基礎学力の定着を目指す。 ・自身の取り組みを振り返り、改善に向けての解決策を自ら考え実行する力の育成を図る。
	19	学校生活をおとして、自尊感情を高め、相互理解を深めながら、自己の在り方を考え、将来に対する目標をもった学校生活を送らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ◎一人ひとりに活躍の場を与え、その中で責任感や自己有用感等を育み、役割を全うさせることで達成感や自己有用感を感じさせる。 ◎現状に満足することなく、自身の成長に向け、各種検定や資格取得に挑戦させたり、未経験の役員・係等の責任を全うさせることで、経験値を高めるとともに能力の向上を図る。 ◎進路HRや進路ガイダンス、地域との連携や協働等をおとして、自己理解を深めるとともに進路意識の高揚を図る。 <p>【取組成果】 / 日々の日直の仕事を手助け、入校訓練や文化祭等においてそれぞれに役割を課すことで、達成感や自己有用感の高揚を図った。 / 資格・検定への挑戦や校外活動への参加を促し、幅広い能力の向上を図った。 / 進路希望調査や進路HR・進路講演会を実施し、進路希望の把握と進路意識の高揚を図った。</p>	3.0	B		
事務部	20	生徒、教職員が安心安全に学校生活を送れるよう施設設備の整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎生徒へ快適な学習環境を提供することに加え、教職員の職場環境の改善にも取り組む。 ◎昨年度末、学校評議員の方から全国的に教職員の業務増大や疲労蓄積が問題になっており、教職員の職場環境の改善にも力を入れるようご意見を頂戴している。 ◎今年度、本館「選択教室」10室の空調設置工事を計画している。 <p>【取組成果】 / 空調設置工事は県からの予算執行が遅れたが、入札段階に入っている。 / 教職員の職場環境改善に向けて、学校産業医による職員面談や巡視、指導助言をおとしての取組を強化している。</p>	3.3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・但州丸やしりつすの維持簡易は大変な経費がかかるため、学校の修理等になかなか予算が回らないと思いますが、県への予算要求をしっかりと行いながらよろしくお願ひします。 ・いつも丁寧な対応ありがとうございます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、職員が安心、安全に学校生活を送れるような環境を整えることは、事務部に課せられた基本的業務と認識し、次年度も引き続き取り組んでいく。 ・今年度、大きなものとして次の整備を実施することができた。 <ul style="list-style-type: none"> 昇降口内更衣室間仕切壁修繕工事 (R6.6) 中庭自転車置場解体撤去工事 (R6.7) 水産情報処理室空調取替工事 (R6.9) 特別教室棟1屋上防水補修工事 (R6.11) 本館選択教室空調設置工事 (R7.3完成予定) 大型実習船但州丸定期検査及び一般整備工事 (R7.3完成予定) 次年度も建物躯体（構造を支える骨組みや主要な構造部分）の老朽化に対し、県教委への予算要求を含め対応していきたい。
	21	建物等の老朽化が進んでおり、雨漏り対策など大規模な工事を実施しなければならぬ時期が到来している。	<ul style="list-style-type: none"> ◎本館(S48.3築)、特別教室棟1(S38.10築)、特別教室棟2(S46.3築)、昇降口格技場(S54.11築)、部室(S53.3築)など建物の老朽化が顕著である。雨漏り対策など建物主要部分への大規模な改修を実施しなければならない時期が到来している。 ◎県教委から本校へ令達される予算には限りがあるが、昨年度同様、緊急性、必要性の高い案件については、積極的に予算要求を行う。 <p>【取組成果】 / 県への積極的な予算要求を行いながら、緊急性の高いものから修繕をしている。</p>	3.4	B		
	22	今年度、事務改善として「学校徴収金の収納代行システムの導入」「旅費や諸手当の教職員による発生源入力」といった大きな変革が求められている。教職員への説明会を開催するなど、新しい事務へスムーズに移行できるように取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ◎県教委からの連絡、また他校の状況を見ながら情報収集に努め、教職員へ説明を行う。 <p>【取組成果】 / 8月の職員会議で教職員への説明を行い、9月1日から教職員各自が旅費システムへの入力を行う体制をとった。 / 事務担当者に過大な負担がかかる場面があったが、個々の教職員が徐々にシステムに慣れてきており、今後負担軽減に繋がるものと考えている。</p>	3.1	B		<ul style="list-style-type: none"> ・事務手続きのICT化として、今年度9月から出張時の旅行命令簿について、職員による発生源入力を導入した。次年度以降、通勤届や扶養手当など諸手当に関する申請などもも拡充していきたいと考えている。 ・他校の状況などを踏まえながら、職員会議でシステム操作に関する説明を行う。

【全体を通して学校評議員の意見】・寮運営に対する評価項目を取り入れてみてはどうでしょうか。大変ですが……。